

震災復興10年とこれからの10年

近未来の東北と建築学専門家集団の関わり方

東日本大震災から10年が経過した東北地方。日本全国に共通する人口減少・超高齢化、市街地や地域の空洞化といったトレンドは、震災による被害がより大きかった地域を中心に一層顕在化しており、見方によっては、その様相は日本の近未来を先取りしているとも言えるかもしれません。

震災後10年の各都市・各専門分野の課題を多角的に切り出すことにより、時代の大きな転換点に立たされている東北地方の近未来の在り方と、専門家集団としての建築学界の関わり方を探索する機会となることを期待します。

1. 災害連絡調査会 × 福島県沖地震

6/19 ㊦ 13:00~14:30

M9.0の東北地方太平洋沖地震の揺れによる洗礼を受けたはずの福島県や宮城県の建築物等について、M7.3の福島県沖の地震(2021.2.13)でなぜ新たな被害が発生したのか、災害調査WGによる調査結果と議論から探る。

東北支部災害調査WGメンバー / ファシリテーター：佐藤健(東北大学)
コメンテーター：源栄正人(東北大学名誉教授) 企画担当：佐藤健



2. 文化財保存まちづくり × 山形県尾花沢市銀山温泉

現地中継 6/20 ㊦ 10:30~12:00

山形県尾花沢市銀山温泉は大正期に建てられた木造旅館が独特の景観を保っており、その景観を生かしたまちづくりが進みつつある。歴史的建築物を活かしたまちづくりが、個性あるまちづくりにとって重要な要素となっており、その意義と課題について議論する。

永井康雄(山形大学) / 小関健太郎(銀山温泉・銀山荘) / 梅津章子(文化庁)
高橋詩織(山形県) / 高澤由美(山形大学) 企画担当：濱定史(山形大学)



3. 地域包括ケア × 宮城県石巻市

6/20 ㊦ 13:00~14:30

少子高齢化社会を迎えた我が国は、福祉制度の持続可能性を模索し、地域包括ケアの導入を進めている。モデル事例とされる石巻市を題材に福祉の未来を議論する。

長純一(医師) / 佃悠(東北大学) / 平野亜紀(元北上町コミュニティナース)
手島浩之(建築家協会) 企画担当：手島浩之



4. 原子力災害復興 × 福島県楡葉町

6/20 ㊦ 14:45~16:15

津波災害のみならず原子力災害を受けた福島県浜通りの現状はどうか。いち早く避難指示解除となった楡葉町の現在の課題と支援の在り方を、地域の視点と遠方からの視点で考える。

山口洋典(立命館大学) / 森雄一郎(ならはみらい) / 松本昌弘(楡葉町役場)
窪田亜矢(東京大学) 企画担当：手島浩之



申込URL：<https://www.aij.or.jp/event/detail.html?productId=643545>

参加費：無料

定員：200名(先着順)

問合せ：日本建築学会東北支部事務局 aij-tohoku@mth.biglobe.ne.jp 022-265-3404

全体調整：原田栄二
企画調整：手島浩之
実施調整：濱定史